

# ～命をまもる安全・安心のまち大東市に～



近年、大規模な地震や風水害などの自然災害が日本各地で発生し、その度に甚大な被害をもたらしています。

本市におきましても、特に今後30年以内に70%から80%の確率で発生するとされている南海トラフ巨大地震や、本市に最も被害をもたらすと想定されている生駒断層帯地震など、危険は目前に迫っており、乗り越えるための準備が必要です。

また、私たちの生活に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症等、あらゆる感染症対策について、多様な観点から災害対応を考えていくことが求められています。

本市では「公助」として、感染症対策を取り入れた新しい避難の形を作り、防災訓練や備蓄物資の充実化、企業や団体との災害協定など、予測されるあらゆる災害に向けて様々な取り組みを進めております。

そして、皆様には、自分や家族の命と財産を守るために自分自身や家族全員で備える「自助」と、地域社会の被害を減らすために地域が一丸となって助け合う「共助」に取り組んでいただくことが非常に大切になります。

こうした取り組みをさらに推進していくため、この度、本市の最新のハザード(災害危険)情報や具体的な避難所運営の様子、ペットの同行避難などの内容を盛り込んだ総合防災マップに全面改訂いたしました。

本マップをぜひ目にいただき、これを機として、お住まいの地域で想定される災害や、避難する場所、緊急時の連絡方法などを今一度ご確認ください、適切な避難行動に移すことができるよう、お役立ていただければと思います。

災害は明日起こるかもしれません。災害に対する高い意識と万全の備えを心がけていただき、この一冊が皆様の命を守る減災の一助になれば幸いです。



大東市長 東坂 浩一

## ■ご利用にあたって

「大東市総合防災マップ」は、大東市民のための防災情報誌です。なお、本誌に掲載されている情報は令和4年12月現在、地図は令和4年6月に調整した大東市地図データをもとに作成しています。その後の変更とは相違する可能性もございますのでご注意ください。

# ハザードマップの見方

このフローに従ってハザードマップを確認し、普段から災害時に自分が取るべき行動を考えておきましょう。

※マップに示した浸水の広がる範囲や深さは、計算結果によるものであり、雨の降り方によっては、浸水の想定されていない地域で浸水したり、想定される深さが実際の深さとは異なる場合があります。

## 手順1 自宅の危険度を確認しましょう。

索引図から自分の家があるページを確認して、洪水氾濫(寝屋川・恩智川・権現川・谷田川・鍋田川)・ため池氾濫、土砂災害の可能性のあるかを確認しましょう。



<b>被害の想定なし</b> (自宅以外の利用施設も確認してみましょう)	<b>洪水の氾濫が想定されている。</b> 	<b>ため池の氾濫が想定されている。</b> 	<b>土砂災害が想定されている。</b> 
---	---------------------------	----------------------------	--------------------------

## 手順2 浸水の深さを確認しましょう。

※むやみな移動はかえって危険な場合があります。情報収集に努め、自宅待機した方がよい場合があります。

被害想定での浸水の深さを確認しましょう。複数ある場合は、深い方で判断。

土砂災害の種類を確認しましょう。



家から近い避難所を探しましょう。実際に避難するときは、避難所開設情報をもとに、近くの開設中の避難所を確認してください。



## 手順3 避難する道順について確認しましょう。

家族で話し合ったり、実際に歩いて安全を確認しましょう。また、ハザードマップに避難経路を書き込んでおきましょう。



# あなたと家族は大丈夫？

**避難はどうするの？**  
共通・避難所…P03~07

**大雨が降るとどうなるの？**  
風水害…P10

**地震災害から命を守るためには？**  
地震…P19

**どうやって情報を入手するの？**  
防災情報…P08

**大雨のとき、どのように避難するの？**  
風水害…P14~15

**日頃からの備えは？**  
日頃からの備え…P22~33

